

- [分類] 普及技術  
 [成果名] ズッキーニのアブラムシ類防除にアドマイヤーフロアブルが有効である  
 [要約] ズッキーニのアブラムシ類防除にアドマイヤーフロアブルの 4,000 倍液を散布する。  
 本剤は蚕に影響を与えるので注意する。  
 [担当] 野菜花き試験場環境部  
 [部会] 病虫部会

### 1 背景・ねらい

ズッキーニで問題となる主なウイルスは CMV（キュウリモザイクウイルス）、WMV（カボチャモザイクウイルス）、ZYMV（ズッキーニ黄斑モザイクウイルス）で、いずれもアブラムシ類が媒介するため、防除効果の高い薬剤を選定する。試験は平成 22、25 年に実施し、今回普及技術とした。

### 2 成果の内容・特徴

- (1) ズッキーニのアブラムシ類防除にアドマイヤーフロアブルの 4,000 倍液を散布する。

農薬登録内容

アドマイヤーフロアブル

[一般名および成分含有量] イミダクロプリド 20%（IRAC コード注：4）

[毒性] 人畜毒性：劇物 [魚毒性] A類相当（成分）

[対象作物に対する適用登録状況（平成 26 年 10 月 14 日現在 JPP-NET 確認）]

作物名	適用害虫名	希釈 倍数	散布 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	イミダクロプリドを含む農薬の 総使用回数
ズッキーニ	アブラムシ類	4,000	100～ 300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	4 回以内（但し、 定植時の土壌混 和は 1 回以内、散 布は 3 回以内）

注 IRAC コードとは IRAC(殺虫剤抵抗性対策委員会)が定める殺虫剤の作用機構による分類で、同じコードは同一系統を表す。詳細は農薬工業会のホームページ (<http://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>) を参照する。

### 3 利用上の留意点

- (1) 本剤はネオニコチノイド系薬剤であり、浸透移行性に優れる。  
 (2) 連用、多回数使用は避け、作用性の異なる薬剤とのローテーションによる使用とする。  
 (3) 本県におけるズッキーニのウイルス病害は、CMV、WMV、ZYMV によるものがほとんどで、いずれもアブラムシ類により媒介されるウイルスであり、育苗期、生育初期からのほ場全体でのアブラムシ類防除に努める。また、罹病株の早期抜き取り、雑草などの伝染源除去などの耕種的防除を行う。  
 (4) 蚕に対して長期間毒性があるので、桑園付近では使用しない。  
 (5) ミツバチに対して影響があるので、直接虫体や巣箱にかからないように注意する。

### 4 対象範囲

県下全域、ズッキーニ栽培地域およそ 60ha

## 5 具体的データ

(1) 平成 22 年に、アドマイヤーフロアブルのズッキーニのアブラムシ類に対する防除効果試験を、野菜花き試験場内のビニールハウスで実施した。発生種はワタアブラムシで、発生程度は少発生であった。本剤の 4,000 倍液は、無処理との比較で散布 6 日後まで高い防除効果が認められた。対照薬剤区は設けなかった。葉害は認められなかった(表 1)。

表 1 ズッキーニのアブラムシ類に対するアドマイヤーフロアブルの防除効果(平成 22 年、野菜花き試験場)

供試薬剤	希釈 倍数	株当たり無翅虫数(補正密度指数)			葉害
		散布前日	散布 2 日後	散布 6 日後	
アドマイヤーフロアブル	4,000	269.7	0.5( 0.2)	0( 0)	なし
無処理	—	285.8	232.9(100 )	391.9(100)	

注) 補正密度指数=(処理区散布後密度×無処理区散布前密度)/(処理区散布前密度×無処理区散布後密度)×100

耕種概要: 野菜花き試験場、施設(パイプハウス)栽培。品種:「ラベン」、播種:4月21日、定植:6月4日。栽植距離:畦幅 150cm、株間 90cm。施肥・一般管理は慣行に準じた。区制・面積:1区5株、2連制。

発生状況:ワタアブラムシ、少発生

処理方法:7月15日に背負い式動力噴霧器を用いて、10a当たり300Lの割合で散布した。

調査方法:散布前日、2、6日後に、各区5株について寄生無翅虫数を調査した。あわせて、葉害の有無を肉眼観察した。

(2) 平成 25 年に、アドマイヤーフロアブルのズッキーニのアブラムシ類に対する防除効果試験を、野菜花き試験場内の露地栽培で実施した。発生種はワタアブラムシで、発生程度は少発生であった。本剤の 4,000 倍液は、無処理との比較で散布 14 日後まで高い防除効果が認められた。対照薬剤区は設けなかった。葉害は認められなかった(表 2)。

表 2 ズッキーニのアブラムシ類に対するアドマイヤーフロアブルの防除効果(平成 25 年、野菜花き試験場)

供試薬剤	希釈 倍数	株当たり無翅虫数(補正密度指数)				葉害
		散布前日	散布 3 日後	散布 7 日後	散布 14 日後	
アドマイヤーフロアブル	4,000	271.2	0.9(0.4)	1.1(0.4)	13.5(10.6)	なし
無処理	—	264.5	227.1(100)	261.2(100)	124.7(100)	

注) 補正密度指数=(処理区散布後密度×無処理区散布前密度)/(処理区散布前密度×無処理区散布後密度)×100

耕種概要: 野菜花き試験場。品種:「ラベン」、播種:5月10日、定植:5月31日。栽植距離:畦幅 80cm、株間 100cm。施肥・一般管理は慣行に準じた。区制・面積:1区10株、3連制。

発生状況:ワタアブラムシ、少発生

処理方法:6月21日に背負い式動力噴霧器を用いて、10a当たり300Lの割合で散布した。

調査方法:散布前日、3、7、14日後に、あらかじめ定めた各区5株について寄生無翅虫数を調査した。あわせて、葉害の有無を肉眼観察した。

## 6 特記事項

[公開]

制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

野菜・花きの病害虫防除農薬の効果試験、平成 22、25 年度(2010、2013 年度)、協力研究